

静岡

## 新東名高速道路(新御殿場IC～御殿場JCT)、 須走道路・御殿場バイパス(西区間)が開通

国道138号須走道路・御殿場バイパス(西区間)は、静岡県駿東郡小山町にある東富士五湖道路須走ICを起点とし、静岡県御殿場市萩原を終点とする延長約8.1kmの自動車専用道路です。このたび、新東名高速道路(新御殿場IC～御殿場JCT)、国道469号バイパス、県道仁杉柴怒田線と同時に令和3年4月10日に開通しました。

須走道路・御殿場バイパス(西区間)が未開通の時は、旧一般国道138号で休日の観光交通等による交通渋滞が発生し、目的地までの所要時間増加の問題が生じていましたが、開通後は観光交通がバイパスに転換し、生活交通との分散が図られることで、渋滞緩和が期待されています。

また、静岡方面から山梨方面へ向かう交通が、東名高速道路の御殿場ICから新東名高速道路の新御殿場ICへと転換することで、御殿場市街地の渋滞緩和も期待されるほか、開通を見据えた観光施設の増強や企業立地の促進による地域の活性化も図られています。

沿線市町では国内最大規模の御殿場プレミアム・アウトレットが増床し、日本を代表するサーキットの一つである富士スピードウェイの隣接地には富士スピードウェイホテルの開業が予定されていて、地域への誘客の促進が見込まれています。

なお、御殿場市内や小山町内では、新東名高速道路や須走道路・御殿場バイパス(西区間)の開通を見越して工業団地への企業進出が進み、製造品出荷額等が増加していますが、開通したことにより、更なる地域産業の発展や雇用創出による活性化が期待されます。

さらに、中央自動車道・東富士五湖道路と新東名高速道路(新御殿場IC～御殿場JCT)が須走道路・御殿場バイパス(西区間)を介して接続されることで広域道路ネットワークが構築され、伊豆地域や箱根から山梨県内に有する富士五湖周辺までの観光地へのアクセス性が向上し、周辺観光ルートの形成が期待されるほか、中央自動車道および東名高速道路の通行止め時の迂回ルートが強化されることで、継続的な企業活動が可能になると期待されます。

こうした効果は、道路整備と地域の取り組み等が一体となって発現するものです。新東名高速道路の東京方面に向けた整備によって、須走道路・御殿場バイパス(西区間)が地域で果たす役割が大きくなることが期待されます。



開通後の新東名高速道路(新御殿場IC～御殿場JCT)、国道138号バイパス

(沼津河川国道事務所提供)